

2022 年度  
第 34 号

# 体育市民連帯 ニュースレター

大韓民国スポーツの

根本的變化を

皆さんと共に

作って行きたいです

体育市民連帯と共に

していただけますか？

体育市民連帯  
執行委員コラム  
学校体育統合セミナー発題  
別れる決心



人権委  
学内運動部の人権侵害  
暴力統制的文化など  
改善措置すべき



高校1年生の  
大学入試から  
体育特技者の  
「校内暴力」は減点



大韓体育会、文化体育部  
の  
『革新委学生選手勧告』  
改善策「積極的に支持」

### 대한체육회, 문화체육관광부의 스포츠혁신위 권고 재검토 및 개선책 마련 발표에 적극 지지

대한체육회(이하 이기훈)는 문화체육관광부의 스포츠혁신위 권고 중 원실과 통렬하  
진 학생 선수 대회 참가 관련 제도 보완 개선 필요에 대해 적극적으로 지지한다. |

대한체육회는 지난 2019년 스포츠혁신위 임명 후 발표한 권고 가운데 선수 연료 보조, 시도시 거주 개선, 학생선수 학습권 보장 등에 내력이 없어 중장년의 연공의 부당한 스포츠 환경을 만들어 나가기 위해 노력해 왔다. 특히 현행의 연식 개선은 위한 지속  
적인 교육의 필요성에 공감함에 따라 자체적인 교육 프로그램도 마련하고 체육인 대상 교육센터 설립 등을 추진 중이며, 학생선수들이 더 나은 환경에서 운동해 혁신할 수  
있도록 힘쓰고 있다.

다만 학기 중 주중대회 참가 금지, 전국소년체제대회 및 전국체육대회 구조개선, 대  
한체육회-KOC 불이 등의 권고에 대해서는 현실과 맞지 않는 <https://www.koc.or.kr>  
있는 우려를 표하며 재검토를 요구해 왔다. 그럼에도 위 <https://www.koc.or.kr> 개  
육단체 등 현행의 어떤 수정 과정을 충분히 가치치 않고 추진된 바 있다.



京畿道教育庁  
学校外の  
青少年大学入試進学  
オンライン説明会開催



## 01 体育市民連帯執行委員コラム 第5回学校体育統合セミナー発題文

## 別れる決心 ジョンバン：体育市民連帯執行委員、西江大学教授

ついに、長い間私の心を重く抑えてきたもどかしさと決別を告げたいと思います。私だけでなく、半世紀の大韓民国体育界を押さえつけた単語、学校運動部、そして教育が行われるべき学校の中で最も反教育的な姿で寄生し、若い選手たちの未来を担保に、直ちに握り締めた試合成績のために酷使と暴力が日常になるようにした法的根拠である体育特技者制度。それと別れる決心をしたら心が少し軽くなります。朴チャヌク監督の近作「別れる決心」でヒロインのタン・ウェイが教えてくれたように、一つの愛が終わった時、他の愛がついに始まるためでしょう。

常に準備して進行する立場で、実際にセミナーに「発題者」というプレーヤーとして進める約束をして、大いに後悔しました（実は今この瞬間もそうです）。発端は運動権（この言葉を初めて聞いたとき80年代の学生運動を思い出しましたが）という奇怪に歪曲された概念が乱発される現実に対する深い悩みです。あちこちでまるで学習権に対応する権利であるかのように語られるこのやせ細った概念の底意を一つ一つ明らかにし、これ以上このような世界人権史上由来のない運動権という単語を公論の場で根絶しなければならぬと思いました。そこにこの体育教師会を始めた李ビョンホ先輩の叱咤も一役買いました。大学教授たちがこのような研究をせずに何をしているのかという悩みにこれ以上耐えるすべがなかったんです（内心では「先輩、私の専攻はスポーツ心理学です」と繰り返していたのですが）。

運動権、一見すると運動する権利と読めます。大韓民国に生まれた市民なら誰でも平等に自分の体を扱い、より良い／より多くの運動ができるよう保障される権利。人間生命の本質が動けば、人生の様々な段階で萎縮せず、思う存分運動とスポーツを楽しめる権利。私が運動権という単語に初めて接した時に思った考えです。多くの人が初めてこの単語に接して似たような考えをします。いや、運動権を保障しろというのがどうして問題なんだ？ 体育をする人たちがむしろ勧めるべきではないかという反問を聞いたりします。今日、私たちが扱う「運動権」という単語は1970年代以後、大韓民国で存在することになる特別な集団、学校運動部に属した学生選手たちに学校の教育的役割を無視したまま思う存分訓練と試合出場を可能にしてくれという無理な主張です。

ハンギョレの金ヤンヒ記者の最近の記事〈14歳ウィンブルドン優勝者はなぜ登校をあきらめたのか〉を引用してみます。

“*チョ・セヒョクの父親であるチョ・ソンギョ全北テニス協会専務理事は18日〈ハンギョレ〉との通話で「国外競技日程を考慮すればとうてい学校授業日数を合わせる事ができなかった」と話した。学校長の許可の下、生徒選手の出席認定欠席許容日数は今年初等学校0日、中学校10日、高校20日である。スポーツ革新委員会の勧告案によると、2023年には中学校も0日に減る。そのため、一部の選手は学校を辞めるか、運動をやめるかの選択の岐路に立っている。チョ・セヒョクのように幼い頃から国際大会で頭角を現す場合、悩みの溝はさらに深まる。チョ・セヒョクはウィンブルドンをはじめ欧州大会出場が1ヵ月近く国外にいた。...*

”『学生選手』も学生だ。だが「学生」と「選手」の分かれ道を作り選択を強要するのが果たして合理的方向だろうか。スポーツ政策の理想と現場の現実間のギャップのために「学生」という身分を自ら放棄させるようにしているのではないか悩んでみる時点だ。”

まるで出席認定欠席日数が減って才能のある若い選手が不当に学校に帰れず外国を転々としているように描写しています。父親がこのようなことを言ったということが信じられないほどです。3月から海外に滞在しながら1学期を通して国際大会に参加している中学校2年生に学校はどんな事をしてあげればいいのでしょうか。出席認定欠席日数を90日程度に増やし、長い海外試合を終えて帰国すれば校門にプラカードでもつけて「偉い、大韓民国の健児だ!」と叫ぶべきでしょうか。マスコミは早くもイ・ヒョンテク、ジョン・ヒョン、クォン・スンウの後を継ぐ次世代テニススターが誕生したとわくわくします。ジュニア時代に世界ランキングを上げながら頭角を現した数多くの若い選手たちがどうなったのか本当に分からないのでしょうか。このような期待とときめきが若い選手たちにどれほど致命的なのか、スポーツ心理学を専攻した私は現場でよく目撃しています。ドイツで優勝したからといって「第2の孫興民」というニックネームをつけて大衆が歓呼します。チョ・セヒョク選手がまともに成長できる唯一の道はマスコミのスポットライトを受けながら試合結果によって賛辞と叱責を受けるのではなく、中学校2年生に適切な教育と訓練を受けながら外部の関心に動揺しない環境を提供することです。

「別れる決心」以外にも最近テニス映画2本を見たんですが。一つはウィル・スミス(全世界が見守る中、クリス・ロックにビンタを飛ばし話題になった)が世界的な女性テニススターのビーナス・ウィリアムズとセレナ・ウィリアムズの父親として出演する<キング・リチャード>とネットフリックスのドキュメンタリーである<ブレイキングポイント>です。映画「キングリチャード」では白人中心のスポーツであるテニスで生き残るために黒人である自分の娘たちを成功させるために孤軍奮闘する父親の姿を見ます。当時、アメリカジュニアエリートテニス界では成功の公式のように思われていたトーナメントに参加させません。有名コーチを探してフロリダへ家族全員が引っ越して本格的な専門選手の訓練を受けさせながらも、同時に娘たちの学校課題と成績に執着します。「ある程度競争力を備えたビーナス・ウィリアムズに試合をしてこそ実力が向上し、そうしてこそ大きなスポンサーの目につく」と説得するコーチの言葉をきっぱり断ります。まだこの子供たちは幼くて、それで彼らをこのように反教育的で競争に勝つことが最高の価値になる環境に自分の娘たちを置くことはできないという理由でした。すぐトーナメントに出れば一気に優勝し、世の中での注目を集める実力を持ったにもかかわらず、父親リチャードは最後まで意地を張ります。さらにビーナス・ウィリアムズが父親に試合に出かけるようにとデモをしたりもします。韓国の14歳テニスの神童の父親とは全く違う観点です(もちろん、現実の父親リチャード・ウィリアムズの暴圧的な育て方が問題になったりもします)。

同じ時期にアメリカ男子テニス界の若い神童マディフィッシュのドキュメンタリー「ブレイキングポイント」は、ウィリアムズ姉妹とは異なる方式の話を聞かせてくれます。ジミー・コナーズ、ジョン・メッケンロー、ジム・クリアー、アンドレ・アガシ、そしてピート・サンプラスまで、アメリカの男子テニスはかなり長い間世界テニス界を支配します。アメリカの大衆が熱狂したのはもちろんです。17歳のアンディ・ラディックが加工したサービスを前面に出してUSオープンで優勝した時、人々は次世代米国テニスを負担していくスターが誕生したと興奮します。そのときアンディ・ラディックのトレーニングパートナーだった選手がマディ・フィッシュです。かなり上手な選手でしたが。15歳(中3)で自分の両親を離れ、フロ

リダ州に住むロディックの家に住みます。お互いに最高のトレーニングパートナーとして軍人出身だったラディックの父親の厳しいトレーニングと最高の選手を育てるアカデミーのノウハウを土台に、当時の米国ジュニアテニスランキング1、2位に成長します。初のプロデビュートーナメント決勝でラディックと対戦したマーディは、マッチポイントを2つも取ってもあまりにも多くのことを考え、あっけなくラディックに初優勝を渡します。そしてキャリアを通してプロ選手になっただけで幸せな選手として28歳まで生きていきます。アンディ・ラディックも当時登場した世界テニス界のビック3、フェデラー、ナダル、ジョコビッチに押されて、米国民の大きな期待に応えられず、厳しい選手生活を続けています。「マーディが28歳になった時、このように選手生活を終えることはできないと思い、厳しいトレーニングをして13キロ減量し、その年の世界ランキング7位まで（その過程でフェデラー、ナダル、ラディックに全て勝つ気炎を吐きます）上がります。ここまでの話はあるプロテニス選手の人生逆転ドラマですが。そして、その翌年マーディはUSオープン準々決勝でフェデラーとの試合を控えて（その大会を最後にアンディ・ラディックが引退を宣言したので、それまで生き残った唯一の米国選手でした）競技場への道を止めて棄権をします。そして約2年間隠遁生活をします。誰にも会わずに自らを自責する苦痛の時間を過ごしたマーディは、心理治療を受けながら自分が経験している不安症状が一種の病気であることを知り、薬物と相談を通じて徐々に回復します。2年後、再び2012年USオープンに参加し、記者会見場で自分が重症不安障害を経験していると告白します。この告白は当時大きな衝撃でしたが。数多くのプロテニス選手たちが自分たちも同じ困難を経験していて、このように勇気を出してくれて本当にありがとうという応援を受けるようになります。自分の家族までも捨ててテニス界での成功に向けて人生を燃やしたマーディ・フィッシュは結局、米テニスランキング1位になるが、トップが与える圧迫に不安障害を経験し、崖っぷちの人生を送らなければなりません。結局、勇気ある告白で世の中に再び出てきましたが、現在世界のプロスポーツ界がどれほど残酷な圧迫の世界なのか、そしてその環境がどれほど若い選手たちに有害なのかをよく見せてくれる事例です。

上の2つの映画を見ながら、再び韓国に現れたテニスの神童を振り返ります。アンディ・ラディックとマーディ・フィッシュは競争をしながら、自分が到達できる最高になるために若い時代を燃やします。あれほど囑望されていた2人の若者は、米国人の期待に及ばず、早い年齢で引退を決心するようになります。彼らが一番運動をたくさんしていた時代にも私立学校に行って授業を聞いてコートに飛び出す場面が出てきます。体育特技者制度、学校運動部のない国では、出席認定欠席日数を認めてほしいと、現実と乖離した政策に問題があるという話を誰もしません。

ついに、別れる決心をします。正常でないことが大人たちによってまるで最善の方法であるかのように歪曲され、その虚像を成し遂げるためにどれほど多くの若い選手たちが壊れたのか。その過程で彼らが全身で耐えなければならなかった不必要な競争と過度な訓練。若い選手たちの未来を自分たちだけで事前に断定し、「運動じゃなければ何をするのか」と問い詰め、「お前がうまくいくように言った」という言い訳をいつまで聞かなければならないのでしょうか。過去のすごい選手たちの顔がずらりと浮かびます。彼らの汗、努力、そして勝利の喜びを覚えています。しかし、そこまでです。これ以上の学校運動部、体育特技者制度はこの地では許せません。別れます。きっぱり！

終わり

2022. 08. 25

## 02 MBC ニュース 2022. 08. 26

### 人権委「校内運動部の人権侵害、暴力統制的文化をはじめ…改善措置すべき」



大学運動部の暴力的で統制的な内部文化を改善するよう必要な措置を施行しろという国家人権委員会の勧告を大韓体育会など関係機関が受け入れました。

人権委は一昨年、大規模運動部を運営する9大学を対象に「学校運動部暴力文化・慣習に対する職権調査」を実施し、昨年3月大学体育会長と調査対象大学総長などに改善策を用意し施行するよう注文した経緯があります。

これに対して大韓体育会長は昨年「スポーツ公正委員会規定」に「選手に対するいじめ」項目を新設し、今年1月にはいじめ被害者の範囲を選手だけでなく指導者など依然として位階文化に属している対象までも含まれるよう拡大しました。

調査対象9大学のうち8大学も学内人権侵害救済機構で暴力的な内部文化を規制できるよう関連規定を整備するなど人権委の勧告内容を履行中であることを明らかにしました。

人権委は「運動部の厳格な位階文化から始まった人権侵害行為を根絶するために今後も学校運動部の暴力的な内部文化に対する認識改善に努力を傾ける」と明らかにしました。

出典：[https://imnews.imbc.com/news/2022/society/article/6401876\\_35673.html](https://imnews.imbc.com/news/2022/society/article/6401876_35673.html)

## 03 世界日報 2022. 08. 25

### 高校1年生の大学入試から体育特技者の「校内暴力」は減点。



現在、高校1年生が受ける2025年度の大学入試から、校内暴力の加害者は体育特技者選考の受験時に減点を受ける可能性がある。

韓国大学教育協議会（大教協）は25日、このような内容の「2025学年度大学入学選考基本事項」を確定・発表した。

大教協によれば2025年度大学入試から体育特技者特別選考に教科成績、出席だけでなく「学校暴力措置事項」が必須的に反映される。

反映方法は大学が自律的に決めることができる。このため、校内暴力の前歴がある生徒は、体育特技者選考を受ければ減点を受けたり、受験が不可能になる可能性もある。

今回の措置は昨年2月、教育部と文化体育観光部が発表した「学校運動部暴力根絶およびスポーツ人権保護体系改善方案」の延長線上だ。当時、教育部などは「校内暴力履歴を入学に影響を及ぼすほど点数に反映する大学に補助金支援時に加点を付与する」と明らかにした。

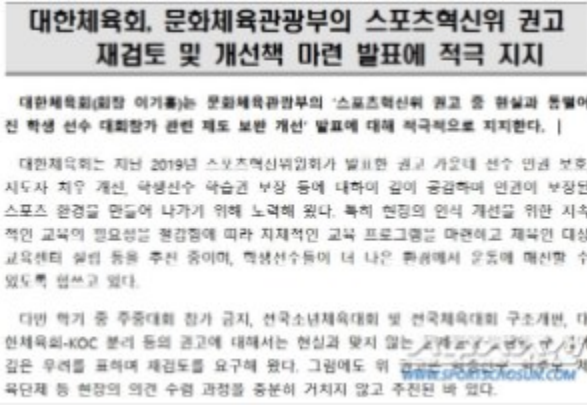
大教協はまた、各大学の「晩学徒（訳注：高齢者）特別選考」基準を「入学年度3月1日基準満30歳以上」に統一することにした。大教協関係者は「『差等的補償が必要な人』を対象にする選考趣旨を考慮し、受験生の混乱を最小化するために大学間で異なった基準を統一した」と説明した。

2025年度大学入学選考に対する詳しい内容は、大教協ホームページと大学入試情報ポータル「どこ行くの」で確認できる。

出典 : <https://www.segye.com/newsView/20220825521032?OutUrl=naver>

#### 04 스포츠朝鮮 2022. 08. 29

### 大韓体育会、文化体育部の『革新委学生選手勸告』改善策「積極的に支持」



大韓体育会が文化体育觀光部の「スポーツ革新委勸告中、学生選手大会参加関連制度補完改善」発表に積極的に支持の立場を伝えた。

大韓体育会は 29 日午後、報道資料を通じて「大韓体育会は 2019 年スポーツ革新委員会が発表した勸告の中で選手人権保護、指導者処遇改善、学生選手学習権保障などに対して深く共感し人権が保障されたスポーツ環境を作っていくために努力してきた」とし、「ただし学期中の平日大会参加禁止、全国少年体育大会および全国体育大会構造改編、大韓体育会-KOC 分離などの勸告に対しては現実と合わない問題点が発生する恐れがあり深い憂慮を表し再検討を要求してきた」と明らかにした。「上記勸告は学生選手、保護者、体育団体など現場の意見収斂過程を十分に経ずに推進された」とし、「4 月の第 20 代大統領職引継ぎ委員会でスポーツ革新委勸告案全面再検討計画を発表し今日、文化体育觀光部が教育部と共にスポーツ革新委勸告中に現実に合わない問題点があると分析し補完・改善策を用意すると明らかにした」として勸告案の一部再検討および改善策準備に歓迎と支持の意を表わした。大韓体育会は続けて「今後、文化体育觀光部、教育部と共に現場の利害当事者が参加した中で互いに協力し共感を形成し実効性のある政策準備と制度改善がなされるよう努力する」という立場を伝えた。

大韓体育会が文化体育觀光部の「スポーツ革新委勸告中、学生選手大会参加関連制度補完改善」発表に積極的に支持の立場を伝えた。大韓体育会は 29 日午後、報道資料を通じて「大韓体育会は 2019 年スポーツ革新委員会が発表した勸告の中で選手人権保護、指導者処遇改善、学生選手学習権保障などに対して深く共感し人権が保障されたスポーツ環境を作っていくために努力してきた」とし、「ただし学期中の平日大会参加禁止、全国少年体育大会および全国体育大会構造改編、大韓体育会-KOC 分離などの勸告に対しては現実と合わない問題点が発生する恐れがあり深い憂慮を表し再検討を要求してきた」と明らかにした。「上記勸告は学生選手、保護者、体育団体など現場の意見収斂過程を十分に経ずに推進された」とし、「4 月の第 20 代大統領職引継ぎ委員会でスポーツ革新委勸告案全面再検討計画を発表し今日、文化体育觀光部が教育部と共にスポーツ革新委勸告中に現実に合わない問題点があると分析し補完・改善策を用意すると明らかにした」として勸告案の一部再検討および改善策準備に歓迎と支持の意を表わした。大韓体育会は続けて「今後、文化体育觀光部、教育部と共に現場の利害当事者が参加した中で互いに協力し共感を形成し実効性のある政策準備と制度改善がなされるよう努力する」という立場を伝えた。

出典 : <https://sports.chosun.com/news/ntype.htm?id=202208300100208010012779&servicedate=20220829>

#### 05 스포츠서울 2022. 08. 25

### 京畿道教育厅、学校外の青少年大学入試進学オンライン説明会開催



京畿道教育厅は学校外青少年を対象に 2023 年度大学入試進学説明会をリアルタイムオンラインで開催すると 25 日明らかにした。

説明会は 2 回にわたって 30 日は一般大学、来月 1 日は専門大学進路進学をテーマに当日午後 3 時から 5 時まで行われる。

説明会は誰でも参加でき、気になる事項はコメントで質問できる。

30 日は [youtu.be/fDWyWrtTMfg](https://youtu.be/fDWyWrtTMfg)、1 日は [youtu.be/MvCn-uPXWBk](https://youtu.be/MvCn-uPXWBk) で接続すればよい。

説明会以降、個別相談が必要な学校外の青少年は、京畿進学情報センターのホームページ進路進学相談で画像相談を申請すれば、いつでも相談と関連資料を受け取ることができる。また、夢響き祭りのホームページで説明会の映像を再び見ることができる。

シン・ハンス学生生活人権課長は「今回の説明会は関連情報不足で困難に陥っている学校外の青少年たちが有益な情報を得られる良い機会になるだろう」と話した。

出典：<http://www.sportsseoul.com/news/read/1154164?ref=naver>

## 06 週刊スポーツニュース

学生運動選手、平日大会にも参加可能になる

<https://www.mk.co.kr/news/sports/view/2022/08/763273/>

瑞山市、多目的八峰国民体育センター41億ウォンを投入して建設

<https://www.newsl.kr/articles/4786322>

南海郡、2023年生活体育施設基金事業公募100%選定

[https://newsis.com/view/?id=NISX20220829\\_0001993714&cID=10812&pID=10800](https://newsis.com/view/?id=NISX20220829_0001993714&cID=10812&pID=10800)

大韓体育会「オリンピック Day Run 2022」を10月16日に開催

<https://www.yna.co.kr/view/AKR20220829091700007?input=1195m>

1400万道民の祭り「京畿道体育大会閉会」…1部水原・2部義王優勝

[https://newsis.com/view/?id=NISX20220828\\_0001993025&cID=14001&pID=14000](https://newsis.com/view/?id=NISX20220828_0001993025&cID=14001&pID=14000)

文化体育観光部の生活体育支援…蔚山18事業選定

<https://news.kbs.co.kr/news/view.do?ncd=5543548&ref=A>

「体も心も健康にすくすく」全南児童生活体育大祭典が終了

<http://news.tf.co.kr/read/national/1961402.htm>

秋夕連休「富川体育施設休館」同好人反発

<https://www.kyeonggi.com/article/20220829580115>

議政府活気体育公園の駐車場敷地「貯留地活用」論議

<https://www.kyeonggi.com/article/20220829580120>

# 体育市民連帯オンライン 定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。  
私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と  
福祉実現のために努力しています。  
皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための  
体育市民連帯活動に強固な土台となります。  
体育市民連帯会員として力になろうと  
される方は下の口座に後援お願いします。

国民銀行 086601-04-095940

口座名義：体育市民連帯

オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。

多くの関心をお願いします。

## INFOMATION

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号

Tel : 02-2279-8999、E-mail : [sports-cm@hanmail.net](mailto:sports-cm@hanmail.net) ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳 : 佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 [jr1fep@gmail.com](mailto:jr1fep@gmail.com)

週刊ニュースレターバックナンバー (資料室) <http://www.yg.jpn.org/sportscm/index.html>